

もの言う牧師のエッセー 第202話

「アスベスト」

買ったばかりの家のキッチン天井付近から水漏れが発生。とにかく壁をぶち壊し水漏れ部分を修理、さあこれから水浸しになった部分を乾かし壁を修復しようという段になって保険屋から「待った」がかかった。そのまま工事に入るとアスベストが飛散し非常に危険と聞いて、1年前、最高裁が大阪・泉南地域のアスベスト被害に対する日本政府の賠償責任を認めた「泉南アスベスト国賠訴訟」を思い出した。

もともと同地域は古くから機織が盛んであったが、第一次世界大戦時の好況を機にアスベスト事業は一気に拡大、最盛期には約200の工場が密集する有数の石綿産業地帯になり、戦前は軍需産業、戦後は自動車など基幹産業の部品を供給した。すでに1世紀前からアスベストの危険性が世界各国で指摘されていたにもかかわらず、有効な対策を講じず見過ごされてきたのが従業員の深刻な健康被害であるが、戦後の繁栄は彼らの犠牲がなければ実現しなかったと言えよう。まさに人命より産業優先の観があるが、聖書はそれら資本家らに対して、

「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲慘を思って泣き叫びなさい。あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。」ヤコブの手紙 5章 1-6節、

と痛烈に断罪している。ここで言う「終わりの日」とはキリストによる最後の審判を指す。今の日本でも原発問題をはじめ、ブラック企業、マタハラなど、従業員の雇用や健康を巡る問題は非常に多い。このままでは又しても解決に1世紀ほどかかるかも知れない。だからこそ神による正当なジャッジが待たれるのだ。くしくも最高裁判決の日、最高裁庁舎では耐震改修工事にとまなうアスベスト除去工事が実施中だった。官公庁の工事においてもアスベスト飛散事故が頻発しているという。アスベストを取り除くように罪を取り除くキリストの前に、国のリーダーたちが悔い改める日が来ることを心から祈る。

2015-10-2



ASIAPRESS